


平成31年度 都立学校・学校経営シート

校章	 都立城南特別支援学校 肢体不自由		通学区域 品川区(全域)、大田区(全域)、港区(一部)									
	肢体不自由のある子供たちの特性や発達課題に応じた教育を行い、地域や社会の一員として自立する力を育てる		進路実績 一般企業1名、生活介護施設8名、就労移行支援事業所1名、重症心身障害者通所1名									
基本情報	所在地	〒144-0046 大田区東六郷二丁目18番19号	電話番号	03-3734-6308								
	アクセス	(1) 京浜急行 雑色駅より徒歩5分 (2) (3)										
本設 置学 部 情 生 徒 数 学 級 数 報 ス ク ー ル バ ス そ の 他	設置学部	小学部、中学部、高等部(各学部に訪問教育あり)										
	幼児・児童生徒数	129名(小学部60名、中学部32、高等部37名)										
	学級数	36学級(小学部17学級、中学部9学級、高等部10学級、うち訪問学級5学級)										
	スクールバス	19台(大型6台、中型13台)										
その他	①オリンピック・パラリンピックアワード校 ②オリンピックパラリンピック文化プログラム学校連携事業 ③情報モラル推進指定校 ④宿泊防災訓練実施校											
本 教 育 課 程 の 特 徴	① 学習アドバイザーによる教員の専門性向上と個別学習の充実		② オリンピック・パラリンピック教育の推進(アワード校)									
	③ 外部専門家(心理士、PT、OT、ST等)と連携した自立活動の充実		④ 防災教育の充実									
報 告 書 の 特 徴	⑤ 社会貢献活動の促進		副籍実施状況 小学部 73% (直接的交流 57% : 間接的交流 43%) 中学部 41% (直接的交流 59% : 間接的交流 41%)									
	学校評価 回答率 保護者85%、教員100% 本校の教育に関する保護者満足度(満足+やや満足)92%		ホームページ http://www.jonan-sh.metro.tokyo.jp/cms/html/top/main/index.html									
目指す学校	①児童・生徒が意欲的に学びたくなる学校 ②保護者が安心して、我が子を託せる学校 ③地域とともに歩み、地域の人々に信頼される学校 ④教職員一人一人が法令等を遵守し、相互の連携を深め組織的な学校運営を推進する学校											
今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価										
目 標 ①	人権を尊重し、個別のニーズに応じた教育活動の充実 ・人権感覚の涵養による体罰・いじめ・自殺の防止 ・新学習指導要領に基づく授業力の向上 ・外部専門家や授業アドバイザー活用による学習充実 ・図書環境の整備と読書・言語活動の充実 ・オリンピックパラリンピック教育の充実と学校2020レガシーの構築	①服務事故防止研修により体罰、不適切な指導根絶、いじめ・自殺防止等について教員が知識を深めた。 ②「楽しく分かる授業」に迫るチームアプローチのあり方について協議した。外部人材との連携を豊かにすることで、協働による集団学習指導の充実を図った。指導計画に基づく個別学習を着実に進めた。 ③校内4箇所に図書コーナーを設置し、図書環境を充実した。近隣高校の協力を得て、環境整備を加速させる。 ④実施年の取り組みを計画的に行い、特にボランティアマインドの醸成を近隣校交流や自校の社会貢献活動推進によってさらに向上させる。通常の高등학교の生徒と交流を深め、「障害者理解」につなげることができた。										
目 標 ②	教職員のスキルアップ及び協働・連携による健康・安全な教育の推進 ・関連機関と連携した実践的訓練による安全や防災の充実 ・チームアプローチによる安全な医療的ケアの推進 ・専門家連携による摂食指導や歯磨き指導の充実 ・迅速で的確なアレルギーや疾病対応 ・ユニバーサルフレームの活用充実	①危機管理計画に基づく教職員行動を実施確認した。管轄消防署による講話・講習、区の福祉課や防災課による実施確認、近隣企業の協力による迅速な避難ができた。今後も継続して行う。 ②校内のコンセンサスを図るとともに、安全・安心な医療的ケアの実施及び医療的ケア専用車両の活用を推進した。 ③摂食指導、歯磨き指導を計画的に実施し、健康教育の推進に寄与した。 ④児童・生徒のアレルギー情報を全校で共有し、小麦粉を使用した授業の校内周知やエビペン研修の実施により、安全・安心に向けた危機管理を促進した。 ⑤外部専門家の助言の下でユニバーサルフレームの一層の活用充実を図った。ユニバーサルフレームの使用回数が増えたが、学部間での使用実績に差異があり、今後の検討事項となっている。										
目 標 ③	地域支援・連携の充実と学校組織体制の強化 ・地域の福祉機関や学校関係との連携の充実 ・地域貢献活動の継続と充実 ・クリーンデスクや校内規定遵守による個人情報管理徹底 ・業務計画に基づく進行管理と業務の精選 ・効率的な業務進行と勤務時間の厳守	①いじめ・体罰防止関連アンケートの年間4回実施と教職員への聞き取りを行い、未然防止に努め、防止の徹底を推進した。全校集会等での表彰を行い、児童・生徒の肯定感を育てた。 ②生徒会による登・下校時の挨拶運動を定期的に行った。教職員は、日常の挨拶等で模範を示した。 ③クリーンデスクは毎週金曜日の職員朝会で徹底を周知・指示した。主幹教諭を中心に日常的に教職員の意識喚起に効果を上げた。 ④計画的・効率的に各業務を進行できたが、具体的な業務精選に至らず、業務縮減は今後の課題となった。超過勤務は、減少傾向であるが、特定の業務を担当する者への負担軽減が必要であり、OJTを通じた後進の育成が必要である。										
数 値 目 標	今年度の数値目標の内容				28年度	29年度	30年度	今年度	32年度	33年度	34年度	
					目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標	
	目標①	保護者、児童・生徒からの個別指導計画に基づく指導の満足度(%)			80%	82%	80%	94%	85%	92%	85%	90%
	目標②	授業改善のための校内授業研究会や授業者支援会議の回数(回)			60回	80回	60回	98回	60回	70回	70回	70回
目標③	ツイッターによる情報発信回数(回)(新規目標)							50回	95回	90回	69回	
								100回	100回	100回	100回	